

金沢市 土木局 道路管理課
笹島 竜成さん

【お子さん】 令和3年5月生まれ（双子）
【育休取得期間】 242日

仕事から離れても、40年の仕事人生でたったの1年。
育児に専念した日々は、大変だけど楽しかった。



—双子とお聞きしました。早い段階から育休を取る準備をしていたのですか？

妻の妊娠が分かったと同時に、お腹の中にいるのが双子だと判明しました。妊婦検診に付き添って行くと、保健師さんから「育休の予定はありますか？」と聞かれるんです。やっぱり双子だから心配されるようで。自分でも「初めての子育てでいきなり2人はきついだらうな」とか「自分の親は働いているからへ

ルプは頼みにくいな」など、いろいろと思いを巡らせていました。

でも実をいうと、妻の妊娠中から育休を取るために早めに動いていたわけではありません。子どもたちが生まれたのは5月ですが、育休の取得について職場に相談したのは4月です。

本来の出産予定は7月でした。双子の妊娠はリスクが高く、予定より早く生まれてしまうことも多々あります。妻の場合も切迫早産になり3月から管理入院することになりました。医師の診察を受ける中で、「子どもの肺に先天性の疾患がある。呼吸状態がよくないかもしれない」と言われ、出産は楽しみというより不安なものになりました。元気に生まれてくるかどうかまったく分からない状態で「育休を取りたいです」とは言い出せなかったですね。とにかく不安でした。

出産は予定より2か月早まり、生まれたときの子どもの体重は1,400g。早産児なので病院での管理が必要で、退院できたのは7月半ばです。生まれてから退院するまでの間、コロナ禍で子どもとの面会は妻しかできず、自分は妻や看護師さんが撮った写真しか見ることができませんでした。上司との話し合いで8月から育休を取得する運びになっていたのも、子どもたちの入院中は、年度末までの仕事をすべて片づける勢いで頑張りました。心配していた肺の手術は無事成功して、今は2人とも健康面での問題もなく元気に保育園に通っています。

一心労の多い数か月間だったんですね。みんな元気に退院できて本当によかったです。育休にはスムーズに移行できましたか？

まず育休を取ることに対して、周囲から否定的な意見がひとつもなかったことにほっとしました。相談するときには勇気がいりましたが、誰からも嫌な顔をされずに了承されたのでありがたかったです。

私の両親も「いいんじゃない？」という反応でした。妻の父は近くに住んでいてご飯を作るのが得意なので、「そうか。ありがとな。困ったことがあれば飯を作りに行くから」と言ってくれました。実際たまに差し入れしてくれたりして、うれしかったです。

夫婦が同じ目線で同じ経験をすることで、大変さを共有できる

—育休に入って生活スケジュールは大きく変わったと思います。

それは覚悟していたので大丈夫です。夜中は3,4時間おきに授乳をするんですが、2人ともわりと同じタイミングで泣いてくれたので助かりました。睡眠時間そのものは削られるのでキツイ部分はありましたが、夜通しずっと起きて順番に世話をしなくちゃいけないということはなかったです。夫婦間でどちら

が何をやるかで揉めたこともありません。家事についても、子どもが生まれる前から掃除や料理などやっていたので、特に苦ではなかったです。



(ご本人提供写真)

—8 か月という長めの育休期間は、どう決めたのですか？

私は子どもを持つのが早かったので、大学時代の友人や職場の同期に育休を取った人がいませんでした。自分のまわりで育休経験者の男性を見たことがない。だから相談できる相手がいません。当初は、育児の大変さがどのくらい続くのか分からず、育休期間を3か月間で申請していました。上司とは、「実際に育児をしてみて『3か月じゃ足りない。無理』となったら育休期間を延ばす方向で」と事前に話し合っていました。実際に育児をしてみた結果、「3か月じゃ足りない。無理」となり、年度末の3月まで育休を延ばしてもらった形です。結果的に8か月になりましたが、必要な期間でした。

—育休を取って初めての率直な感想を教えてください。

双子の育児は忙しいし大変なことも多いです。でも育児は楽しいですね。職場柄、苦情やクレーム処理を取り扱うことも多いので、そういう仕事と比べたら、子どもの成長を間近で感じられる育児は幸せだなと。

育休は取ってよかったです。最近、私の周りでも少しずつ「子どもができた」というニュースを聞くようになりました。「実際に育休取ってみてどうだった？」と聞かれることもあります。「育休よかったよ」と経験者の立場から伝えられることを伝えています。

本当にどうでもいい話なんですけど、育休中はひげをどこまで伸ばせるか試していました（笑）。公務員として仕事をしていたら出会えない自分だったので、ひそかに良い経験になりました。

育休を取らないと、父親は平日の朝晩と土日しか子ども触れ合う時間がないですよ。妻と話す時間もあまり取れないでしょう。妻が「育児が大変」と訴えてきても、ピンと来ないまま終わってしまうんじゃないかな。育休を取って、夫婦で同じ目線で同じ経験をすることで、何が大変で、どんな助けが必要か、共有できるのではないのでしょうか。

所得税や社会保険料を考慮すると、給与と育休給付金の差は意外と小さい

—職場への復帰はスムーズでしたか？

長めの育休でしたが、復職するときは休み明けの月曜日に仕事に来る感覚でした。周囲の反応も「久しぶりだね」くらいだったので助かりました。新年度スタートの4月1日に戻ったので、さりげなく合流できたのかも。年度途中だと、気恥ずかしい部分もあったかもしれませんね。

—育休を取ることで感じたデメリットがあれば教えてください。

デメリットは特にはないです。「育休で長く職場から離れたら取り返すのが大変」と考える人もいるかもしれませんが、40年の仕事人生の中でたったの1年です。

ただお金の面が気になる人は多いかもしれません。どのくらい給付金が出るのか、育休前はよく分からないので。自分の場合はお金についてあまり気にせず「えいや」で取ったけれど、生活に直結する部分で

すし、気にする人は気にすると思います。個人的には、7割給付される最初の半年は「思ったより入ってくるな」、半年を超えて5割給付になったときは「気持ち少ないかな」という感想を持ちました。

実際に取得して分かったことですが、給付金には所得税や社会保険料がかかりません。支給額そのものは給与の3分の2になりますが、所得税や社会保険料を考慮するとほぼトントンになります。それらの点を広く周知できれば、収入源の心配も減って、育休を積極的に考える人が増えるかもしれません。



(ご本人提供写真)

頑張ればできるし、頑張るしかない

—現在は、仕事と2歳の双子の育児でバタバタだと思います。どう両立させていますか？

両立については、ただ頑張るのみです。今一番大変なのが、仕事を終えて帰宅してからの育児のコアタイムのこなし方です。午後7時に帰宅した場合、子どもたちに晩ごはんを食べさせて、お風呂に入れて、歯みがきなどをすべて終わらせて、9時には寝かしつけたい。となると、7時から9時は時間との戦いです。

ここはもう「頑張ればできるし、頑張るしかない」と自分に言い聞かせて頑張っています（笑）。

一方で、仕事についても「子どもが小さいから」をできない言い訳にはしたくありません。子育ては子育て、仕事は仕事。仕事をして乳幼児世話をし、という時期は今だけですし、ずっと続くわけではありません。だから頑張るのみです。

取材・編集／子育て向上委員会 長谷川由香